

令和3年度 第2回学校関係者評価委員会

日 時：令和4年3月25日（金）19：00～19：50

場 所：長崎医療技術専門学校 会議室

出席者：長尾 博，有福浩二，大坪 健，吉岡正恒，杉本直美

分部哲秋，韋 傳春，林勇一郎，荒木一博，岩永隆之，早野和之

欠席者：なし

座 長：韋

1. 出席者紹介

2. 校長挨拶

国家試験合格発表の結果について

PT：新卒 82.1% (88.1%) 全体 79.1%(79.6%)

OT：新卒 92.3%(88.7%) 全体 88.9%(80.5%)

入学者の状況

最終的に理学療法学科 39名、作業療法学科 24名入学となった。

3. 前回会議後の報告

韋) 保護者アンケートからの意見に対する対応

- ・学習機会の確保：国家試験対策期間（10月から2月）は、3年生の学校利用時間を午後7時までとした。
- ・自家用車での登校について：令和4年度から学生の自家用車での登校を申請許可制により認めるようにした。但し、駐車場については各自で契約することとしている。
- ・相談しやすい環境：オフィスアワーを設けて、相談しやすい環境を作った。
- ・保護者への緊急連絡時の方法：現在は、郵便やホームページ、学生のタブレットを通して行っていた。次年度からは「メールメイト」という情報配信するサービスを契約している。定期的な情報は、学校広報誌にてお知らせしている。

4. 開会

当委員会第6条の規定による出席数を満たしており、本委員会は適切に成立していることを確認する。

5. 委員長選出

委員長は長尾 博先生ですすめさせて頂く。

6. 審議事項

『令和3年度 学校自己評価結果について』（別紙参照）

岩永) アンケートは各項目5点満点となっており、集計は平均点を算出して、令和3年度から過去4年間の結果を記載している。3.5以上緑色、3.0未満黄色で示している。先ず全体的な項目から説明していきたい。（以下、配布資料に沿って説明）アンケートは10項目で構成している。明らかにデータの変化が起こっているのは令和元年から2年に移行したときに平均値が下がっている。これは新型コロナウイルス感染拡大が影響しているという印象が強い。

特に学校運営と学生支援、教育環境などに数値として表れているが、特に社会貢献と地域貢献は低い数値である。これは、アダプトプログラムで風頭公園周辺の清掃活動が2年前からほとんど実施できていない状況であったことが原因と考える。次は詳細な内容を説明していく。

「教育理念・目的」については、若干上がっている。「理念・目的・育成人材像・特色などが学生・関係業界・保護者等に周知されているか」という問いについて、「クラスルームの利用、ホームページの改善により努力ができていたと感じる」という前向きな意見があり、また「教育環境」についても、「ICT教育に適応した環境改善が行われている」という意見があり、コロナ禍であっても教員の努力で対応できたと感じる。

(以下、iPadの画面と通じて説明)

「Google クラスルーム」を用いて、全校学生や各クラス、個人宛に連絡事項や資料の配布、授業の案内を行っている。

「Google ドライブ」については、理学療法学科 25 期生の利用方法を例に紹介する。国家試験対策の一部として、過去 10 年分の国家試験問題と解答解説を保存して共有できるようにしている。

「オンライン授業」においては、ZOOM のブレイクアウトルームを利用して、グループ活動や個別対応などを行ってきた。

このような活動が平均点の高い項目における要因と考える。

『令和 3 年度学校行事の振り返りと令和 4 年度の計画について』

荒木) 前回の報告にて、コロナ禍で学生が感じている不安やストレスについて、精神健康感が 4 割、身体健康感 3 割低下したという報告させていただいた。今年度は、コロナ禍でもどうにかイベントを実行できるように取り組んできた。前期は「医技専さるく」「生活安全指導」「1 年生合同合宿」「ゲートキーパー養成講座」が延期または中止となった。中止したイベントの代わりとして、1・2 年生対象に定期試験についての情報交換や簡単なゲームをして交流会を行った。後期では、「専修学校スポーツ交流会」「イギセンピック」は中止となったが、前期に中止となった「医技専さるく」を屋内組と屋外組に分散させて行った。12 月に「ゲートキーパー養成講座は」を実施した。「3 年生を送る会」はオンラインにて実施し、卒業式もオンライン配信を行った。

令和 4 年度は、「1 年生合同合宿」については中止となるが、それ以外のイベントは行えるように計画を立てている。地域貢献としては「アダプトプログラム」も実施できるように考えている。

章) 卒業式も参加者を限定したが、オンラインにて参加できるようにした。三者面談については、遠方にいる保護者ともオンラインにて面談することもできた。

2 つの報告事項について、いろいろなご意見をいただきたい。

長尾) 学習成果については、成績の向上なのか、就職面の効果なのか。ICT 教育については、一般大学では約 6 割が効果的で、4 割は効果的ではないといわれているが、ICT 教育が効果的ではない学生に対してどのように考えているか。

コロナ禍で社会性を教育するためにどのようにしていくべきかという 2 点が資格を取得する専門学校の課題ではないかと感じた。

岩永) 学習習慣と社会性（自己管理能力）の 2 点については、成績不良者が劣っている部分だと感じている。今年の 3 年生への対応を振り返ると ICT 教育で対応できている学生と対応できていない学生に対して指導を検討する余地があったと考える。

長尾) ICT教育のいいところとして、個別相談をする機会が増えたことではないか。昔では個別相談の機会は少なかったように感じる。そういう意味では良い効果ではないかと思う。

岩永) 実際にLINE等を使用して個別相談や対応を行っていた。

大坪) ICT教育を利用して、学生間の横の繋がりや個別相談などの対応に感心した。学校イベントについてはコロナ禍でも工夫されていると感じた。質問として、県外の就職状況はどのような感じだったのか。

荒木) 福岡や関東方面に就職した者は1割程度いる。最近ではオンラインで就職説明会や就職面接を行う就職先が増えてきた。

吉岡) 能力が低い学生に対してどのような対応をしているのか。学校自己評価の結果に対してどのように対応しているのか。

岩永) 学校として妥協してはいけない部分については、高い評価を維持しており、教員間のコンセンサスが取れている結果であると感じる。

林) 能力が低い学生に対しての対応としては、2年前ぐらいから学年全体の学力が正規分布ではなく、U字曲線を示し中間層がない傾向がみられている。これはICT教育が効果的な群と効果的ではない群に分かれていると感じる。国家試験の結果を振り返り、もう一度従来の対面での学習方法を振り返る必要があると考える。今後は、オンライン対応と対面対応の使い分けを考えていこうと思う。

岩永) 補足であるが、初学年次から目的意識をしっかりと持たせるような関わりや興味を持たせるような授業構成を考えるようにしていきたい。

有福) 定員割れしている状況を見ると、学力が低い学生でも入学させることになると思うが、実際はどのようにしているのか。

韋) 苦勞することは覚悟の上で入学させている。

長尾) 近年はどこかの大学も専門学校も同様のことが起こっていると思う。優秀な学生が入学する時代ではなくなっている。どこかの大学・専門学校においても同様の問題を抱えているのではないか。

林) 学力が低い学生がすべて悪いわけではなく、留年しても最終的に国家試験に合格する者もいるので、進路変更するべきか留年して継続させるべきかという判断が難しい状況になってきている。

大坪) 就職してからも成績が良い卒業生が全ていい職員とは限らない。逆に成績が不良であった卒業生の方が成長する場合があったりする。

岩永) 学生の可能性があれば、学校としては挑戦させたいという方針でいる。

7. 総評

長尾) コロナの状況の中でも教育環境や教育活動などにおいて努力されていると感じた。少しでも早くコロナが収束することを願っている。

8. 謝辞

分部) 今回いただいた意見を今後の教育方針に活かして頑張っていきたい。

9. 閉会

韋) これを持ちまして第2回学校関係者評価委員会を閉会する。

次回の学校関係者評価委員会は、令和4年10月7日（金）19：00を予定する。